

程度副詞“更”と“还”について

謝 平

0. はじめに

程度副詞“更”と“还”¹⁾はいずれも程度が増すことを表し、“比”構文においては、互いに置き換えられる場合が少なくない。

- (1) 构思中的旅顺至蓬莱大桥将比杭州湾跨海大桥更长。(→ 还)

< <http://paper.wenweipo.com/2010/08/17/CH1008170015.htm> >

[計画中の旅順から蓬莱までの大橋は杭州湾跨海大橋よりずっと長い。]

- (2) 世界跨度最大的斜拉桥，比日本多多罗大桥还长……(→ 更)

< 维基百科网 >

[世界最大スパンの斜張橋であり、日本の多々羅大橋よりもさらに長い……]

上記の例が示すように、“更”と“还”はいずれも「比較対象の程度が高い」という前提があり、主体の程度はさらに高い」ということを表しており、日本語で「もっと」や「さらに」に訳され、互いに置き換えられる場合が多い。しかし、実際には“更”は“还”よりも制約が多く、次の例のように“更”を用いることができないケースがみられる。

(3) 小李比小王（“更/还”）高呢。

[李さんは王さんよりも背が高い。]

(4) a. 新的摩天楼比双峰塔（更/还）高一点。

[新しい高いビルはペトロナス・ツインタワーより少し高い。]

b. 新的摩天楼比双峰塔（更/还）高一些。

[新しい高いビルはペトロナス・ツインタワーより少し高い。]

c. 新的摩天楼比双峰塔（“更/还”）高三十米。

[新しい高いビルはペトロナス・ツインタワーより三十メートル高い。]

d. 新的摩天楼比双峰塔（“更/还”）高得多。

[新しい高いビルはペトロナス・ツインタワーよりずいぶん高い。]

e. 新的摩天楼比双峰塔（“更/还”）高多了。

[新しい高いビルはペトロナス・ツインタワーよりずいぶん高い。]

例(3)で示すように語気助詞“呢”は“更”とは共起しないが、“还”とは共起する²⁾。また、“还”は例(4a)～(4e)のいずれの場合においても用いられるが、“更”は例(4c)のような具体的な数字を用いる数量補語や例(4d)、(4e)のような補語とは共起しにくい。

以上のような違いは、陆俭明(1993)でも指摘されているが、その理由については詳しく分析されていない。また、“还”が数量詞と共起し、“更”が数量詞と共起しない理由について、中桐(1997)では、“更”は程度差に注目せず、“还”は程度差に注目するためであると指摘されている。しかし、その指摘は有力な根拠はない。

本稿はまず意味論の観点から程度差“比”構文で用いられる“还”と“更”の表すニュアンスを分析し、その上で補語成分との共起関係について考察し、これらの言語現象の背景を探ってみる。

1. “更”と“还”のニュアンスについて

1.1 “更”について

陆俭明（1993）は“还₁”と“更”の用いられる構文を“X比Y [] W、X比Y [] W了、X比YW、X比Z [] W了、T₁X比T₀ [] W了、XW₁、X [] W₂”の五つの構文に分けて両者の文法的振る舞いの違いを分析している。陆俭明（1993：5）は、“更”と“还”はともに比較を表すことを指摘した上で、さらに“还”は“比拟”[比喻]にも用いられるが、“更”は用いられないと指摘している。

- (5) 香蕉比苹果（更/还）好吃。 <陆俭明1993：4>
[バナナはリンゴよりさらにおいしい。]
- (6) 那条蛇比碗口（?更/还）粗。 <陆俭明1993：5>
[あの蛇は茶碗の口よりさらに太い。]

例（5）では、“更”と“还”のいずれも用いることができるのに対し、例（6）は比喻を表しており、“还”を用いることはできるものの、“更”を用いると不自然になると陆俭明（1993）は指摘している。また、例（6）のように“还”が比喻や誇張的な表現に用いられる理由については、“还”を用いた場合には描写的になるためであると指摘している。しかし、“更”については詳しく分析されていない。

また、中桐（1997）、大島（2000）では、“A比B还Y”構文に用いられる“还”は主に基準点であるBが「最大値」あるいは「最高値」であるが、そのBでさえもAには及ばないという意味を表すと指摘されている。

- (7) 你看他瘦得，胳膊比火柴棍儿还细。 <中桐1997：7>
[ほら見て、彼は痩せていて、腕がマッチよりも細い。]
- (8) 唉，你看她那块手表比指甲盖还小哩。 <大島2000：8>

[おい、見て、彼女の腕時計は爪よりも小さいね。]

しかし、この指摘は上記の例(7)、(8)のような比喩の場合にのみ適用されると思われる。中桐(1997)、大島(2000)の説明では、次の例(9)のように“还”ではなく、“更”が用いられる理由を解釈することができない。

(9) 他知道周恩来比他更难过。

＜CCL 语料库 / 魏奕雄《郭沫若与鲁迅的生死情》＞

[彼は周恩来が彼よりずっと悲しんでいるのを知っている。]

(10) 他知道周恩来比他还难过。

[彼は周恩来が彼よりもさらに悲しんでいるのを知っている。]

例(9)の“更”は、例(10)のように“还”に置き換えることができる。例(9)と例(10)はいずれも「周恩来が彼よりさらに悲しんでいる」ことを判断しており、いずれも彼の悲しみが高いレベルに達していることが読み取れる。しかし、“还”を用いることで“他”の悲しみが「最大値」或いは「最高値」であるとは言い切れないと考えられる。

例(9)の“更”からは、「周恩来は彼よりさらに悲しんでいる」という程度差が激しいことが確実であると伝えようとする話し手の強い判断が読み取れる。これに対し、“还”は先行研究(陆俭明1993など)の指摘通り、その程度差に対する話し手の「誇張的な」ニュアンスが読み取れる。“还”と“更”の語気には大きな違いがあるといえよう。そして、その語気の違いは語気助詞との共起にも反映する。例えば、疑問文ではない平叙文では、“还”は“呢”と共起することができるが、“更”は“呢”と共起しにくい。

(11) 她才二十二岁，比俺媳妇还漂亮呢！

＜CCL 语料库 / 《读者》合订本＞

[彼女はまだ二十二歳で、俺の嫁よりもさらにきれいだよ。]

(12) ?她才二十二岁，比俺媳妇更漂亮呢！³⁾

上記のような点については、陆俭明(1993)でも指摘されているが、詳しく説明されていない。それでは、その理由はどこにあるのであろうか。吕叔湘(1980:366)では、“还”と共起する“呢”について“指明事实而略带夸张”[事実を指摘し、やや誇張的な語気を帯びている]と指摘している。そのような語気を表す“呢”は次の例のように、“一定”[必ず、きっと]や“绝对”[絶対に]などのような強い断定を表す副詞とは共起しにくい。

(13) a. ?他的女朋友一定漂亮呢。

b. ?他绝对没来呢。

(14) ?非常好看呢/?很干净呢/?有点漂亮呢/?比较好呢/?够红呢

例(13)で示すように、“一定”や“绝对”などのような副詞はある事柄を強く判断・評価するニュアンスが含まれており、その強く断定する語気は“呢”の誇張的な語気と矛盾するため、両者は共起しにくい。また、例(14)のようにほとんどの程度副詞は“呢”と共起しない。これらの程度副詞はいずれもある状態について判断・評価のモダリティが含まれているためである。同様の理由で、“更”はある事実に対して、強く断定する語気を表すため、事実を誇張的に伝える語気を表す“呢”と共起にくくなると考える。

1.2 “还”について

“还”は多義になることも可能である。次の例を見てみよう。

(15) 他比朝青龙还胖。

[彼は朝青龍よりも太っている。]

例(15)は次の例(15a')、(15b')のように主体によって、二通りに解釈される可能性がある。

(15') a. 那小孩胖乎乎的，简直比朝青龙还胖。(→[?]更)

[あの子はぽちゃぽちゃしていて、まるで朝青龍よりも太っている。]

b. 白鹏比朝青龙还胖。(→更)

[白鵬は朝青龍よりも太っている。]

例(15a')は主体が子どもであるため、実際に朝青龍より太っていることはあり得ず、比較対象「朝青龍」は単なる喩えとして挙げられているにすぎない。この“还”を“更”に置き換えると、話し手が「あの子どもは比較対象の朝青龍よりもっと太っているということが確実である」と判断しているように読み取れてしまい、非現実的であるため、ここでは“还”を用いるほうが自然である。

一方、例(15b')の主体は白鵬であり、比較対象の「朝青龍」より太っていることが事実である可能性があるため、“更”に置き換えることが可能となる。“还”は例(15)のように、主体は実際に比較対象より程度が高いかどうかは確定できない場合があると考えられる。もちろん、次の例(16)のように比較対象が喩えではない場合もある。

(16) 周岁时还没桌子高。现在比桌子还高了半个头呢。(→^{??}更)

< <http://www.babytree.com/ask/detail/285791> >

[満一歳のときは机よりも低かったけど、今は机より頭半分高くなった。]

例(16)は“半个头”という具体的な差が示されており、背丈が机より高いことは疑いもない事実である。例(16)の比較対象“桌子”は喩えではな

く、身長の比較基準であり、この場合の“还”は中桐(1997)、大島(2000)の指摘する「最大値」或いは「最高値」とは考えにくい。次の二例を比較してみよう。

(16') a. 周岁时还没桌子高。现在比桌子高了半个头。

[満一歳のときは机よりも低かったが、今は机より頭半分高くなった。]

b. 周岁时还没桌子高。现在比桌子还高了半个头。

[満一歳のときは机よりも低かったが、今は机よりも頭半分高くなった。]

“还”を用いない例(16a')は「机より頭半分高くなった」という事実を伝えているだけであるが、“还”を加えた例(16b')は、「机より低いと思っていた背丈が、実際は机よりも頭半分高くなった」という意外的なニュアンスが読み取れる。

“还”は、比較対象のほうが主体より程度が高いはずであるが、実際には「主体のほうが比較対象よりも程度が高い」という意外なニュアンスを表すといえる。そしてこの意外な語気から、さらに次の例(17)のように誇張的な語気を表すことになる。

(17) 而今大家都看出了她比三年前更_A有精神，甚至比四十年前还_B年轻、还_B青春。

<http://blog.sina.com.cn/s/blog_565aa9dd0100fpe.html>

[みんなは見えてわかるように、彼女が三年前よりもっと元気になって、さらに四十年前よりずっと若く、ずっと生き生きとして見える。]

例(17)の原文は“比三年前”の後に“更”が用いられており、“比四十

年前”の後に“还”が用いられている。例(17A)の“更”は“还”に置き換えられるが、例(17B)の“比四十年前还年轻、还青春”の“还”を“更”に置き換えると多少違和感が生じる。本当に「四十年前よりもっと若い」ということは事実ではない以上、“更”を用いにくいからである。

したがって、“更”の基本的な意味機能は主体の程度が比較対象よりさらに高いということに対して発話者が事実であることに対する強い判断のニュアンスを表す。それに対し、“还”は、まずは「主体の程度が比較対象よりも程度が高い」という意外なニュアンスを表し、そしてその意外なニュアンスから誇張的なニュアンスも表すことになると考えられる。

2. 数量補語との共起について

既述のように“更”は不定数量詞以外の数量補語や程度補語“多”とは共起しにくいのが、“还”はそれらと共起することができる。その理由について、中桐(1997: 11)では次のように指摘されている。

“更”は程度副詞として程度軸上の位置を確定するのが本来の性質であり、他者との比較は付随的なものであった。それ故、程度軸上の位置が他者より上か下かがわかればよく、その差は問題にならなかった。ところが、“还”は想定と現実の間の矛盾つまり、認識の差を問題にするので、その差を具体的に表すため数量詞と伴うことも可能だと考えられる。

しかし、“更”は本当に「その差は問題にならなかった」のであろうか。また、“更”と“还”は“比”構文で用いられる場合、構文自体が既に「程度軸上の位置を確定する」という役割を果たしており、“更”がそのような役割を果たすとは言い切れないといえる。本節は“更”と“还”は数量補語との共起関係からそれぞれの役割について考える。

まず日本語の例から見てみよう。

- (18) a. 東京タワーよりずっと高い。
b. 東京タワーより三十メートル高い。
c. *東京タワーよりずっと三十メートル高い。

上記の例(18)で示すように、日本語の場合も差があることが含意されるかどうかは、統語面に大きな影響を与える。例(18a)には大きな程度差を表す「ずっと」があり、例(18b)には「三十メートル」という具体的な差を表す語がある。この二つの文はともに成立するが、例(18c)のように「ずっと」と「三十メートル」は共起することができない。中国語の場合も同じである。「更」と「比」とも“比”構文に用いられるが、述詞の後に数量補語がある場合、“还”が用いられるが、“更”は用いられにくい。

- (19) a. 东京塔是世界上最高的独立铁塔，比巴黎埃菲尔铁塔还高13米。(→*更)

< http://blog.sina.com.cn/s/blog_491ad2f001000bok.html >

[東京タワーは世界で最も高い自立式鉄塔のタワーで、パリのエッフェル鉄塔よりも13メートル高い。]

- b. 东京塔是世界上最高的独立铁塔，比巴黎埃菲尔铁塔还高多了。(→*更)

[東京タワーは世界で最も高い自立式鉄塔のタワーで、パリのエッフェル鉄塔よりずっと高い。]

- (20) a. 可能是他也老了，虽然他比我还小几岁。(→*更)

< 巴金《随想录》 >

[彼も年取ったからかもしれない。彼は私より何歳か若いけど。]

- b. 他比我还小多了。(→*更)

[彼は私よりずっと年が若い。]

例 (19)、(20) で示すように、“更”は程度差を表す補語とは共起しない。それは“更”は日本語の「ずっと」と同じように自体に主体と比較対象の程度差が大きいことを含意しているためであり、数量補語が表す意味と重複してしまうからである。一方、“还”は「主体が比較対象よりもさらに程度が高い」という意味を表し、主体と比較対象の間に差があるというニュアンスが読み取れるが、“还”自体には程度差が大きいというニュアンスは含意されていない。そのため、補語で程度差を補足説明することができると考えられる。

それでは、“更”と“还”はそれぞれどのような役割を果たしているのだろうか。次の例 (21) を見てみよう。

(21) a. 这座双层大桥比南京长江大桥更长。

[この二層大橋は南京長江大橋よりずっと長い。]

b. 这座双层大桥比南京长江大桥还长。

[この二層大橋は南京長江大橋よりもさらに長い。]

また、上記の (21) の二例から“比～”の部分を取ってみると、次のようになる。

(22) a. 这座双层大桥更长。

[この二層大橋はずっと長い。]

b. #这座双层大桥还长。⁴⁾

例 (22a) が示すように“更”が用いられる場合、比較対象が提示されなくても必ず比較対象が存在することが暗黙の了解であるが、“还”は比較対象が提示される“比”構文に依存しており、例 (22b) のように比較対象が提

示されないと“还”は「さらに」や「もっと」のような意味で用いられなくなる。したがって、“更”が用いられる例(21a)は主体“这座双层大桥”のほうが「ずっと長い」ということを表しており、“更”は述詞部分を修飾している。それに対し、“还”が用いられている例(21b)は、意外に比較対象よりもさらに長いということを表しており、“还”は比較対象の“南京长江大桥”を取り立てていると考えられる。

つまり、“更”自体には主体と比較対象の間に程度差が大きいことが含意されている。それに対し、“还”は主体と比較対象の間に差があるというニュアンスが読み取れるが、その程度差が大きいというニュアンスは含意されていない。また、“更”は述詞部分と緊密な関係を持つのに対し、“还”は“比”の後の比較対象と緊密な関係を持つといえよう。そのため、次の例(23)、(24)が示すように、“更”と“还”は一緒に“比”構文で用いられる場合、“还”は必ず“更”の前に置かれる⁵⁾。

- (23) a. 有时无言的暗示比万千有力的语言还更有力。

＜杨沫《青春之歌》＞

[時には無言の注意は沢山の有力な言葉よりもずっと有力だ。]

- b. *有时无言的暗示比万千有力的语言更还有力。

- (24) a. 可是我觉得你比她们还更勇敢、更坚决。

＜杨沫《青春之歌》＞

[しかし、私はあなたのほうが彼女たちよりももっと勇敢で、もっときっぱりしていると思う。]

- b. *可是我觉得你比她们更还勇敢、更坚决。

例(23)、(24)の示すように、“更”と“还”が共起するとき、“更”を“还”の前に置くことはできない。“还”は比較対象を取り立てており、その直後に置かなければならないため、“比～”と“还”の間に“更”を入れる

ことができなくなる。同じように、“更”は述詞形容詞“有力”、“勇敢”を修飾する。例(23b)、(24b)のように“更”と述詞形容詞の間に“还”を加えることができなくなる。

しかし、“更”は程度差を表す補語とは共起しないといっても、次の例(25)、(26)のように、“更”は不定数量補語“一些”、“一点”とは共起することができる。

- (25) 这次情况确实比往常更紧张一点，我们一再要求使馆在加强安全的同时，也关注着事态的进展。(→还)

<新浪网 <http://mil.news.sina.com.cn/2004-04-06/1412191613.html>>

[今回の事態は確かに今までよりずっと緊迫しており、私たちは何度も大使館に安全措置を強めるように求めた。同時に情勢の進展にも注目している。]

- (26) 我想她可以演得比这更好一些。(→还)

<CCL 语料库/翻译作品《嘉莉妹妹》>

[彼女はこれよりもっと上手に演じられると思う。]

例(25)は“一点”と共起しており、例(26)は“一些”と共起している。もちろん、不定数量詞を取り去った場合でも次の例のように成立する。

- (27) 这次情况确实比往常更紧张。

[今回の事態は以前よりもっと緊迫している。]

- (28) 我想她可以演得比这更好。

[彼女はこれよりもっとうまく演じられると思った。]

例(25)はイスラエルでテロ事件が発生し、国中に不安と緊張が広がっているときにイスラエル駐在の中国人大使の発言である。例(27)と異なつて、“一点”があり、“更”の表す程度差を抑え、口調を和らげる働きがあ

ると考えられる。また、例(26)と(28)はいずれも彼女の演技に対する評価であるが、例(28)のように、“一些”が用いられていない場合、彼女にもっと期待していたというニュアンスが読み取れ、少しきつい表現になると言えよう。同じように例(26)は、“一些”を加えることによって、今回は期待に近い演技だという意味を表し、やわらかい表現になる。

このように、“更”と共起する不定数量詞“一些”、“一点”は“更”の表す程度差を抑えることによって、口調を和らげるという語用論的な働きを果たしていると考えられる。

3. おわりに

“比”構文に用いられるB類程度状語“更”と“还”は、いずれも「程度の高い比較対象より、主体の程度がさらに高い」というニュアンスがあり、置き換え可能な場合が多い。しかし、具体的な差を表す補語と共起する場合、“更”は不定数量詞以外の補語とは共起しにくいのに対し、“还”にはこのような制約はない。これらの違いは先行研究でも指摘されているが、“呢”との共起や“还”の多義性などについてまだ説明されておらず、また、数量補語との共起について深く説明されてこなかった。

本稿では、“更”と“还”の表すニュアンスと数量補語との共起を中心に考察した。その結果、“更”の基本的な意味機能は、主体と比較対象の間に程度差が大きいことに対して、自分の強い判断を伝えることであることがわかった。したがって、比喩や誇張的な表現としては用いられにくく、聞き手に誇張的に伝えることを表す語気助詞“呢”とは共起しにくい。それに対し、“还”はまず主体が比較対象よりもさらに程度が高いことに対して意外なニュアンスを表す。そして、その意外なニュアンスから誇張的な表現に派生すると考える。そのため、“他比朝青龍还胖”のような文は“还”があるため、実際に朝青龍よりも太っているという場合もあれば、実際は朝青龍ほど太っていないが、喩えとして誇張的に言う場合もある。また、

“还”は意外・誇張的なニュアンスを帯びており、“更”のような確実的で強い語気を表さないため、“呢”と共起しやすい。

“更”は語気を和らげるために不定数量詞“一些”、“一点”と共起することができるが、具体的な差を表す数量詞とは共起しにくい。中桐（1997）では、“更”は「その差は問題にならなかった」ため、数量詞と共起しないと指摘されているが、本稿では、中桐（1997）の考えと異なり、“更”は程度性のある述詞を修飾する場合、程度差が大きいニュアンスが含意されているため、具体的な数量を表す補語と共起しないと考える。つまり、その大きな差こそが“更”の焦点である。そのため、文脈に比較対象が提示されなくても何かと比較しているニュアンスが読み取れ、具体的な程度差を表す補語と共起することができなくなる。

一方、“还”は「さらに」という意味を表す場合、比較対象が提示される“比”構文に依存している。“还”は主体と比較対象の間に程度差があるという意味が読み取れるが、“更”と異なり、「大差」があるというニュアンスまでは含意されていない。“还”は比較対象を取り立てており、「比較対象よりもさらに程度が高い」というところに着目しているといえる。そのため、“还”は補語によって程度差を補足説明することが可能であると考えられる。

注：

- 1) 本稿で考察対象とする“还”は陆俭明（1993）のいう“还₁”を指す。陆俭明（1993）は、程度状語としての“还”は“程度深”[程度が高いこと]（“还₁”）を表す場合もあれば、“程度浅”[程度が低いこと]（“还₂”）を表わす場合もあると指摘している。以下原文を引用する。

“还₁”和“还₂”不光意义不同，在句子中的语言形式也有区别：“还₁”不能轻读，“还₂”必须轻读。它们的分布也不同，“还₁”只能出现在“X比Y……”这样的比较句中，“还₂”绝对不在那样的环境里出现。

(陆俭明 1993 : 1)

〔“还₁”と“还₂”は意味が異なるだけでなく、文中における言語形式も異なる。“还₁”は軽く発音することができないが、“还₂”は軽く発音しなければならない。また、両者の分布も異なる。“还₁”は“X比Y……”のような比較構文にしか用いられないが、“还₂”はそのような環境では決して用いられない。〕

- 2) “更”、“还”と語気助詞“呢”の共起について、陆俭明(1993: 17-18)でも次のように指摘されている。

用“还”的句式，句末可带语气词“呢”，……用“更”的句式，句末不能带语气词“呢”。

〔“还”が用いられる構文は、文末に語気助詞“呢”を後置することができる。…“更”を用いる場合、文末に語気助詞“呢”を後置することができない。〕

- 3) 例(12)のような例文を非文と判断するインフォーマントが多い一方で、これを適格文と見なすインフォーマントもあり、個人差が見られる。
- 4) この場合の“还”は陆俭明(1993)の指摘する“还₂”であり、「まあまあ」という意味を表している。
- 5) 中桐(1997: 10)は下記の例を取り上げて、「“更”が客観的な性格を持つのに対し“还”は話者の主観が大きく働いている」と指摘している。

这里有友情，有信仰，比死还更强的信仰。

〔ここに友情がある。信仰もあり、死ぬよりずっと強い信仰がある。〕

主要参考文献：

陆俭明(1993), <“更”和“还”>, 《陆俭明自选集》, 河南教育出版社

吕叔湘(1980), 《现代汉语八百词》, 商务印书馆

时卫国(2005a), <更+被修饰语+量性成分>, 『愛知教育大学研究報告』(人文・社会科学編)第54号

时卫国(2005b), <还+被修饰语+量性成分>, 『教養と教育：共通科目研究交流誌』第5号

大島潤子(1998), <日本語と中国語の比較を表す程度副詞をめぐって—「もっと」

と“更”}, 『国文目白』 37号

大島潤子 (2000), 〈副詞“还”についての一考察〉, 『お茶の水女子大学中国文学
会報』 第19号

中桐典子 (1997), 「比構文における“更”と“还”」, 『お茶の水女子大学中国文
学会報』 第16号